

金沢大学

産学官・知財関連レポート2022



金沢大学
KANAZAWA
UNIVERSITY

先端科学・社会共創推進機構

Frontier Science and Social Co-creation Initiative

金沢大学 産学官・知財関連レポート 2022 目次

1. 金沢大学先端科学・社会共創推進機構について	1
・ 組織	1
・ 機構スタッフ紹介	2
2. 共同研究について	3
・ 民間企業との共同研究件数・研究費受入額（年度別）	3
・ 令和3年度 共同研究 分野別実施状況（314件）	3
・ 共同研究実施件数及び研究費受入額における個別実績（令和2年度）	4
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和2年度実績）」（抜粋）	
3. 令和3年度 共同研究一覧	5
4. 特許出願について	12
・ 発明届出・特許出願件数（年度別）	12
・ 令和3年度 特許出願 分野別内訳（69件）、教育研究職員 分野別割合	12
5. 令和3年度 公開特許出願一覧	13
6. 特許実施許諾について	15
・ 特許権実施等件数（外国分含む）（年度別）	15
・ 特許権実施等収入額（外国分含む）（年度別）	15
・ 特許権実施等件数及び収入における個別実績（令和2年度）	16
※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和2年度実績）」（抜粋）	
7. ご案内	17
・ ワンストップサービス窓口、技術相談について	17
・ 金沢大学の研究シーズと特許技術の活用について	17
・ 金沢大学産学連携協力会会員企業様向け支援について	17
・ 学術コンサルティング制度について	18
・ 共同研究について	19
・ 包括連携協定について	20
・ 共創型研究支援プロジェクトについて	21
・ 金沢大学認定ベンチャー制度について	22
・ 金沢大学産学連携協力会のご案内	23

1. 金沢大学先端科学・社会共創推進機構について

先端科学・社会共創推進機構は、基礎研究から応用研究に至る全領域の研究支援と、産学官連携により得られる研究成果の社会還元を促進するため、従来、研究推進及び産学連携・知的財産管理を担当していた先端科学・イノベーション推進機構と、地域社会との連携・課題解決を担当していた地域連携推進センターを統合し、2019年2月に発足しました。

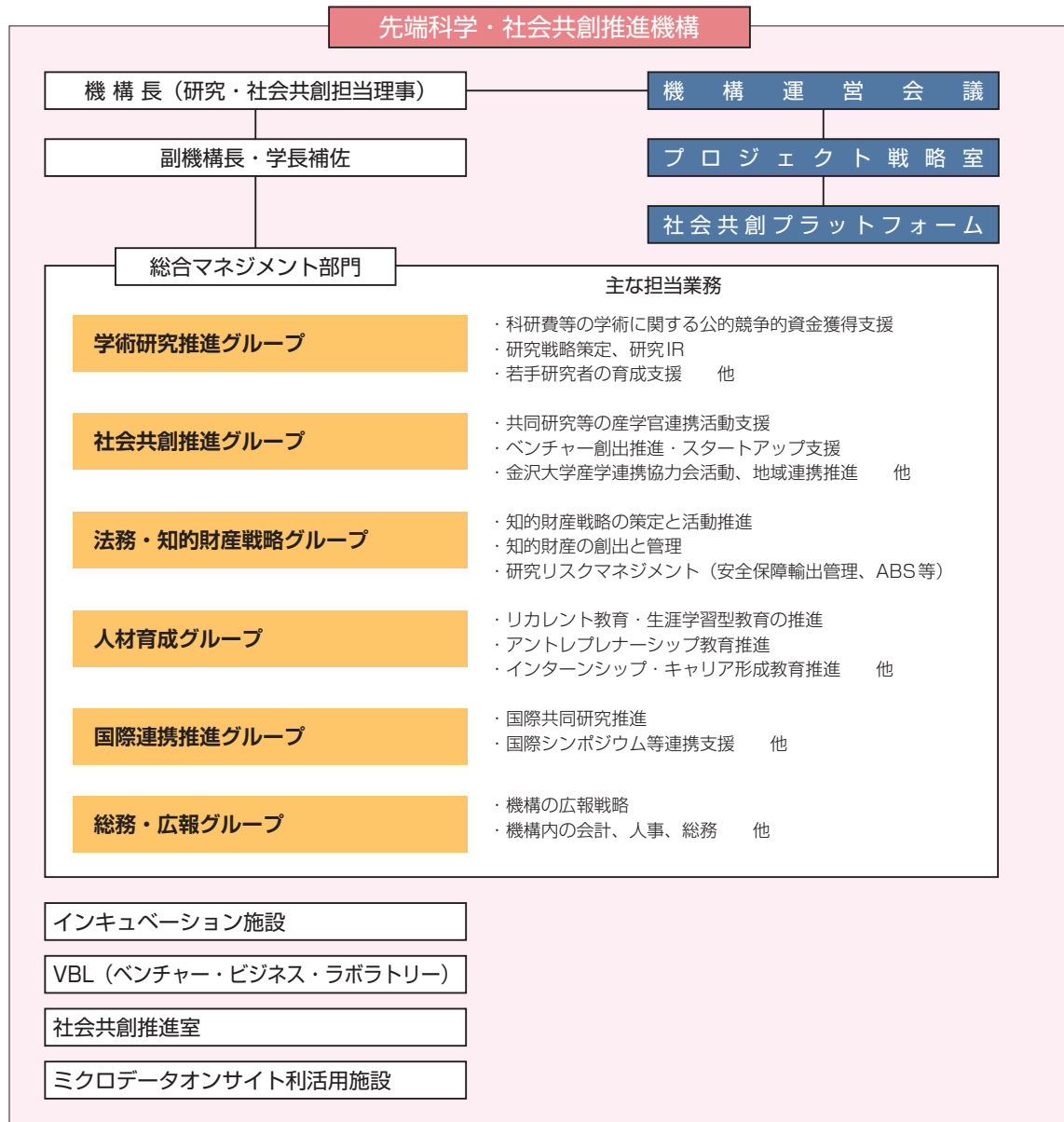
産学官連携推進においては、引き続き、研究成果の社会還元を促進し、もって本学の教育研究の活性化と社会貢献に資することを目的として活動いたします。

組織

本機構は、総合マネジメント部門と関連施設等で構成されます。

総合マネジメント部門は、教員、URAが複層的に各グループに所属し業務に従事します。併せて、本学の社会共創の核となる様々なプロジェクトに対し、総合マネジメント部門から複数の担当者を配置し、編成されたチームがプロジェクトの推進を支援します。

産学官連携推進活動や知的財産の権利化・活用推進は、主に社会共創推進グループと法務・知的財産戦略グループのメンバーが担当いたします。



機構スタッフ紹介

機構長

中村 慎一（理事（研究・社会共創・大学院支援担当））

副機構長

山岸 雅子（理事（企画評価・ダイバーシティ推進・広報戦略担当））

坂本 二郎（学長補佐（社会共創推進担当））

総合マネジメント部門

	副学長・副機構長・ 学長補佐	グループリーダー	担当
学術研究推進グループ	松本 邦夫（副学長） 河崎 洋志（学長補佐）	稲垣 美幸（准教授）	樋口 明弘（特任准教授） 太田 一陽（特任准教授） 工藤 信明（特任准教授） 三島由美子（特任助教） 長谷川恵理（特任助教）
社会共創推進グループ	坂本 二郎（学長補佐、 副機構長） 長谷川 浩（学長補佐）	安川 直樹（准教授）	津田 武明（特任教授） 高山 卓三（特任教授） 山田 秀尚（准教授） 平子 紘平（特任助教） 石川 桃絵（特任助教） 石川 正行（特任助教） 菅田恵理子（特任助教） 宮ノ下智史（博士研究員） 善田 浩輝（産官学連携 コーディネーター）
法務・知的財産戦略グループ		目片 強司（教授）	喜多 健太（特任助教） 野村 綾子（特任助教）
人材育成グループ	山岸 雅子（理事、 副機構長） 佐無田 光（学長補佐）	篠田 隆行（准教授）	淑瑠ラフマン（特任助教） 木下 靖子（特任助教） 岸岡 智也（博士研究員） 小林 秀輝（博士研究員）
国際連携推進グループ	米田 隆（学長補佐）		
総務・広報グループ		久保 亮（特任教授）	池田 虎三（特任助教）
個別プロジェクト支援			坂田 章吉（特任教授） 長井 圭治（特任准教授） 布川 正史（特任助教） 角村 法久（特任助教）

インキュベーション施設

施設長 長谷川 浩（学長補佐）

VBL（ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）

VBL長 長谷川 浩（学長補佐）

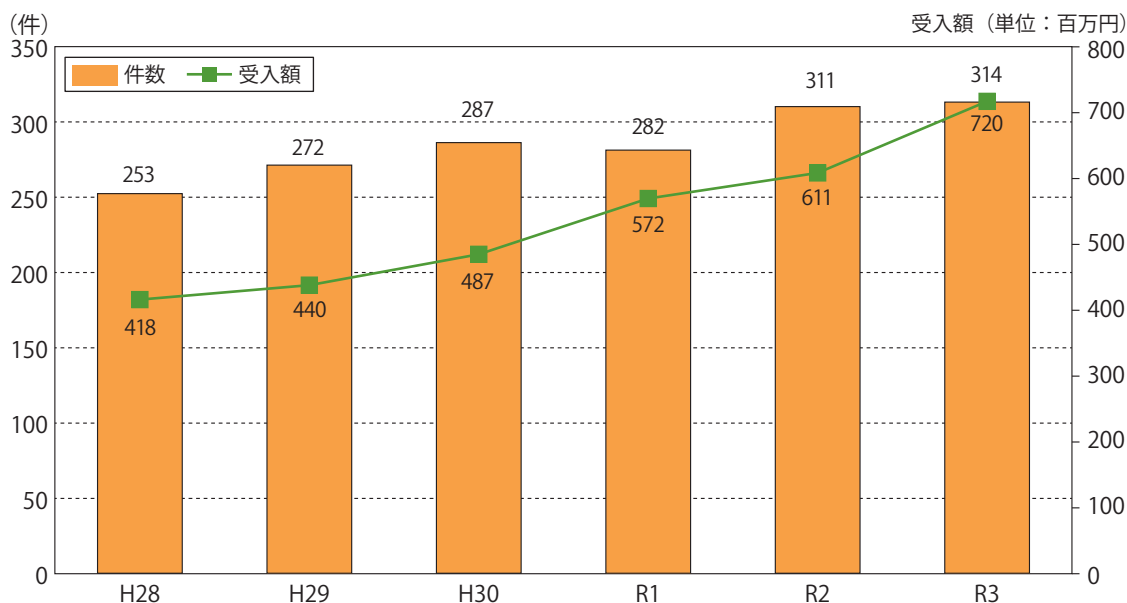
社会共創推進室

室長 佐無田 光（学長補佐）

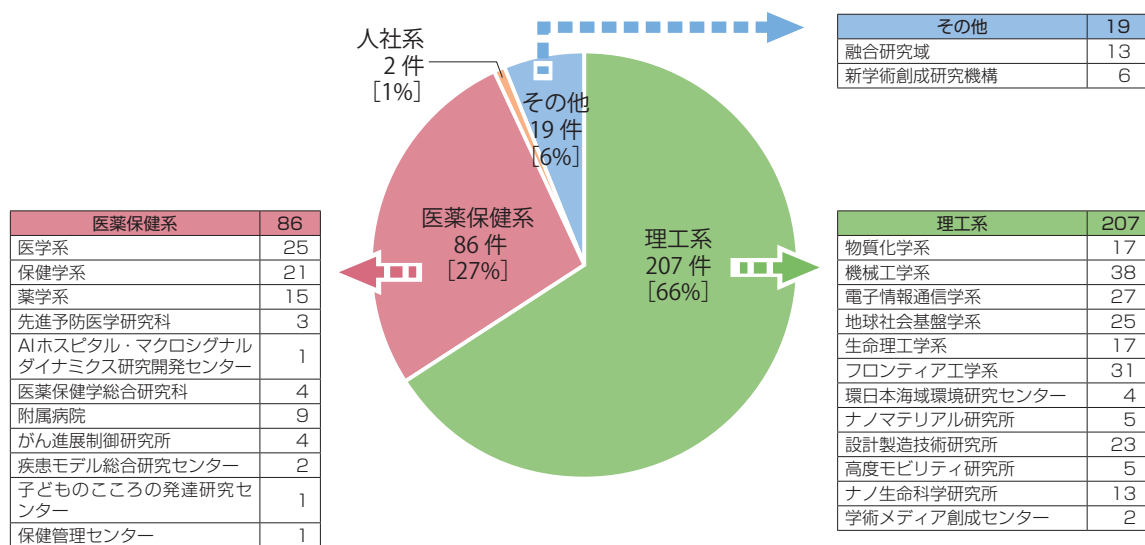
2. 共同研究について

民間企業との共同研究に伴う研究費受入額は、着実に増加してきております。令和3年度の分野別の実施状況は、66%が理工系、27%が医薬保健系でしたが、融合分野や人社系の教員との共同研究に対しても、関心が集まるようになってきました。

■民間企業との共同研究件数・研究費受入額（年度別）



■令和3年度 共同研究 分野別実施状況（314件）



共同研究実施件数及び研究費受入額における個別実績（令和2年度）

民間企業との共同研究実施件数

No.	機関名	件数	区分
1	東京大学	1,977	
2	大阪大学	1,382	
3	東北大学	1,306	
4	京都大学	1,300	
5	慶應義塾大学	734	私
6	九州大学	716	
7	東京工業大学	695	
8	北海道大学	636	
9	名古屋大学	619	
10	神戸大学	586	
11	早稲田大学	545	私
12	信州大学	447	
13	筑波大学	446	
14	広島大学	444	
15	千葉大学	362	
16	岐阜大学	347	
17	東京農工大学	329	
18	名古屋工業大学	326	
19	岡山大学	316	
20	金沢大学	311	
21	熊本大学	309	
22	山形大学	292	
23	大阪府立大学	284	公
24	徳島大学	283	
25	三重大学	278	
26	横浜国立大学	268	
27	東京理科大学	261	私
28	群馬大学	256	
29	長崎大学	234	
30	静岡大学	225	

民間企業との共同研究に伴う研究費受入額

(単位：千円)

No.	機関名	受入額	区分
1	東京大学	13,249,314	
2	大阪大学	9,014,489	
3	京都大学	5,935,115	
4	東北大学	5,171,714	
5	名古屋大学	3,983,838	
6	慶應義塾大学	3,241,488	私
7	東京工業大学	2,702,173	
8	九州大学	2,118,556	
9	北海道大学	2,005,388	
10	筑波大学	1,497,232	
11	順天堂大学	1,471,873	私
12	早稲田大学	1,471,553	私
13	広島大学	1,276,721	
14	神戸大学	1,245,485	
15	山形大学	760,184	
16	東京農工大学	728,792	
17	千葉大学	712,836	
18	東京医科歯科大学	679,219	
19	長崎大学	674,308	
20	九州工業大学	641,718	
21	名古屋工業大学	637,578	
22	東京理科大学	636,873	私
23	大阪市立大学	632,962	公
24	岐阜大学	632,873	
25	金沢大学	610,808	
26	信州大学	579,987	
27	徳島大学	574,810	
28	熊本大学	566,204	
29	横浜国立大学	547,252	
30	山口大学	534,300	

※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和2年度実績）」（抜粋） ※上位30機関
 (注) 表中の区分において、無印は国立大学等、「公」は公立大学等、「私」は私立大学等を表す。

3. 令和3年度 共同研究一覧

下表は、令和3年度に実施した民間企業や官公庁との共同研究のうち、一部（164件）をご紹介します。共同研究を始める前の予備的検討として、「技術相談」を利用されることも効果的です。また、本欄掲載以外の共同研究対応可能な教員につきましても、ご紹介させていただきますので、ご遠慮なくお問い合わせください。

(公開分 164件) (各部局・系の50音順)

研究題目	受入部局	職	氏名
羽咋市の都市像に係るランドデザイン事業に関する研究	人間社会学域・研究域 経済学経営学系	教授	寒河江雅彦
「いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2021」の経済波及効果の算定に係る共同研究	人間社会学域・研究域 経済学経営学系	教授	寒河江雅彦
水性作動液等の開発に関する研究	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
鉛汚染土壌に対する溶出抑制剤の開発	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
海藻場における鉄の動態の評価手法に関する技術開発	理工学域・研究域 物質化学系	教授	長谷川 浩
高性能新規近赤外発光色素の開発	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	古山 溪行
天然ゴムの性質に関わるタンパク質の探索・機能改変	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	山下 哲
天然ゴムの生合成の機構解明および機構解明のための無細胞酵素発現系による膜を用いた新規酵素評価方法	理工学域・研究域 物質化学系	准教授	山下 哲
ブルトニウム分析における環境負荷低減に向けた分析技術の導入	理工学域・研究域 物質化学系	教授	横山 明彦
工作機械主軸の非接触動剛性測定法の開発	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	高杉 敬吾
ギ酸塩直接燃料電池に関する共同研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
CO ₂ 電解ギ酸生成に関する共同研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
環境親和性の高い次世代小型分散電源システムの開発	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
直接ギ酸形燃料電池の大型化に関する研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	辻口 拓也
合成繊維の染色品質判定技術の研究	理工学域・研究域 機械工学系	准教授	若子 倫菜
Deep Learning 映像処理技術の研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	准教授	今村 幸祐
磁歪振動発電の商品化に向けたコイル実装技術と市場調査	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
破碎工場等における「磁歪式振動発電デバイス」の適用検討	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
工作機械の加工中発電に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
振動診断システムに対する磁歪式振動発電の適用検討	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
車両製造工場の振動を用いた磁歪式振動発電に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
Fe-Ga 結晶の磁歪特性に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
Fe-Ga単結晶を用いた振動発電IoTデバイスの実用化に向けた研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
磁歪振動発電（材料除く）に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
センサへの振動発電適用の研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
貨物コンテナの電池レスIoT化の研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
磁歪振動発電素子を使用した高効率共振周波数制御法の開発	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	上野 敏幸
真空中のアークの挙動・温度把握に関する研究～MPS粒子法を用いた金属蒸気挙動・温度の数値解析	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
代替ガスアーク反応論的非平衡モデリングと圧力・温度依存特性の研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
電磁熱流体解析を用いたプラズマ切断用トーチの性能向上	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
タンデム型変調誘導熱プラズマと原料間歇導入による機能性ナノ粒子大量生成法の開発および非熱平衡プラズマによる粉体の表面改質	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
SF6代替ガスおよびその分解ガスの熱力学特性・輸送特性の原子・分子論的解析に関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
気中消弧材料のアブレーション現象の検討	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
熱プラズマ照射によるポリマー繊維の耐アーク性検証と耐アーク性繊維の探索試験	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	田中 康規
電磁波可視化システムに関する研究	理工学域・研究域 電子情報通信学系	教授	八木谷 聡
防波柵による越波の低減効果及び波力特性に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎田 真也
防波柵の柵高による越波流量変化の評価方法に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎田 真也
防波柵の柵高による波力変化の評価方法に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	榎田 真也
コンクリート構造物の耐衝撃性評価の体系化に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	栗橋 祐介
繊維補強無孔性コンクリートの構造性能および耐衝撃性能評価	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	栗橋 祐介
橋梁の振動抑制に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
損傷を受けたコンクリート構造物内の鋼材の実応力測定に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
福井県道路橋梁の維持管理及びデータベースに関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
トラック隊列走行による道路交通振動の寄与に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
防災IoTセンサを活用したインフラ構造物モニタリングシステムの研究開発	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
CIMを活用したインフラ構造物のモニタリングに関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	教授	深田 宰史
マルチスケールな交通連携を想定した拠点配置と交通マネジメントについての技術研究開発	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	山口 裕通
パイルド・ラフト基礎設計技術の開発	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	熊 曦
鋼矢板の止水効果の検証、及び国内堤体補強設計指針のベトナムへの転用可能性の検証	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	熊 曦
地盤災害の予測・軽減手法の開発に関する研究	理工学域・研究域 地球社会基盤学系	助教	熊 曦
植物細胞を用いた三次元構造体の形成に関する研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	伊藤 正樹
越後白雪茸中の有効成分分画法の確立	理工学域・研究域 生命理工学系	准教授	坂本 敏夫

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
抗火石を用いた改質水の植物への影響評価	理工学域・研究域 生命理工学系	准教授	坂本 敏夫
複合微生物集団の構造と機能の統合的理解に関する研究	理工学域・研究域 生命理工学系	准教授	田岡 東
微生物ナノファイバースェルローズ (NFBC) に適した樹脂の探索および開発	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
バイオ由来の熱硬化性樹脂の開発に関する研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
ナノファイバークロスタックセルローズ (NFBC) と多糖類誘導体等を複合化した、CNF複合化100%植物由来樹脂 (Totally Full-Biobased Composite, TFBC) の研究開発	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
JST研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) / 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 【課題1】 持続可能な多糖類植物資源生産	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
JST研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) / 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 【課題2】 未利用再生可能資源からの効率的なバイオセルローズナノファイバー製造	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
JST研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) / 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 【課題3】 セルローズ樹脂リデザイン	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
JST研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) / 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 【課題4】 多糖類バイオプラスチック複合材	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
JST研究成果展開事業 共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT) / 再生可能多糖類植物由来プラスチックによる資源循環社会共創拠点 【課題5】 持続可能なバイオプラスチック普及に必要な需要者側の環境意識およびライフスタイルの転換に関する実証研究 (価値観のイノベーション)	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
イオン液体中でのセルローズ誘導体化の研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	高橋 憲司
環境に配慮した養鰻システム開発とフィリピン産ウナギの飼育成績向上に関する研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	竹内 裕
オーガニック養殖技術を用いた水産物の開発・事業化研究	理工学域・研究域 生命理工学系	教授	松原 創
FMCW-LiDARの研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	飯山 宏一
FMCW光距離計測の精度と各種パラメータの影響検証	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	飯山 宏一
高齢者の身体機能の維持・改善	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
ゴルフクラブとゴルフボールの衝突に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
中低域を対象としたキャブ内空間振動騒音キャンセリング技術	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
心弾動センシングシートの検出精度向上に関する研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	小松崎俊彦
建物点検ロボットの開発	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明
配電工事の効率化に資する工法改善の研究 (ロボット開発)	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
フォークリフト荷役状態検知システムの研究	理工学域・研究域 フロンティア工学系	教授	関 啓明
脳由来神経栄養因子の活性化を導く低周波電気刺激の周波数帯の解明とその臨床応用	理工学域・研究域 フロンティア工学系	助教	西川 裕一
頭頸部快適性評価のための力学モデル構築	理工学域・研究域 フロンティア工学系	助教	西川 裕一
マイクロプラスチック生成機構の解明	理工学域・研究域 フロンティア工学系	准教授	比江嶋祐介
乳幼児の発達における睡眠の質に関する研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	菊知 充
脳の個性を生かした子どもの健やかなこころの育成：特異から得意へのパラダイムシフト	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	菊知 充
非アルコール性脂肪肝患者の遺伝子解析情報を用いた創薬標的分子のバリデーションおよびバイオマーカー探索	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	篁 俊成
非アルコール性脂肪肝を合併した2型糖尿病患者に対するSGLT-2阻害薬とSU薬の有効性に関する研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	篁 俊成
ナノHAの機能向上開発	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	藤永由佳子
TP53機能喪失変異に起因する分子標的薬抵抗性を克服する研究	医薬保健学域・研究域 医学系	教授	矢野 聖二
酸素透過プレートを用いた腎臓スライス培養系の構築	医薬保健学域・研究域 薬学系	准教授	荒川 大
エルゴチオネイン含有きのこ摂取の影響に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
薬物動態に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
タモギタケのエキス末を用いたエルゴチオネインの機能性研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
生理学的薬物速度論モデルを用いたヒト薬物動態の解析に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
核酸の機能性研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	加藤 将夫
低CO2と低環境負荷を実現する微細藻バイオリファインリーの創出	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	國嶋 崇隆
血清尿酸値維持に働く生理機構に関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
近位尿管上皮細胞を用いた新規in vitro評価系の構築	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
ヒト血液脳関門薬物トランスポーターに関する研究	医薬保健学域・研究域 薬学系	教授	玉井 郁巳
Investigation of a new image-based technique for reducing streak artifacts due to the photon starvation in CT (和訳：CT装置における画質改善アルゴリズムの開発)	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	市川 勝弘
Multi Energy CT評価用ファントム素材の研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	市川 勝弘
Pixel-aligned Gridの開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	市川 勝弘
細菌感染症早期画像診断法の探索	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	川井 恵一
標識化合物を用いた薬物の脳移行性に関する評価検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	川井 恵一
フォトンカウンティング型X線イメージング検出器の特徴を生かした新しい診断画像の生成手法に関する基礎研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
金属含有X線遮蔽シートの臨床利用法の基礎検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
OSL線量計を用いた出力線量評価技術の実用化に向けた研究開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
フォトンカウンティング型画像検出器の高精細画像の生成を旨とした全ピクセルを対象とした画像処理手法の開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
ビスマス粒子を含有するポリウレタンフォーム型X線遮蔽体の開発	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	林 裕晃
座骨や仙骨等骨盤の撮像に関する研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	宮地 利明
リコンビナントATを用いたAT異常症の検出に適したパラメーター案の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
血漿可溶性C-type lectin-like receptor 2 (sCLEC2) の臨床的有用性の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
高感度微量トロンビン形成試験キットの臨床的有用性の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
先天性アンチトロンビン欠乏症のヘパリン結合能の測定法の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
プロテインS活性測定に影響する要因の検討	医薬保健学域・研究域 保健学系	教授	森下英理子
人の労働環境と腰痛予防に関する研究	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	米田 貢
ウェアラブルデバイスを利用した高齢者の認知機能とバランス機能の評価法の開発と機能回復介入システムの構築	医薬保健学域・研究域 保健学系	准教授	米田 貢
固相トランスフェクション法による培養細胞恒常性維持機構の研究	医薬保健学域・研究域 医薬保健学総合研究科	特任教授	金子 周一
陽子線がん治療の高度化	医薬保健学域・研究域 医薬保健学総合研究科	特任教授	金子 周一
遺伝子発現解析と疾病診断	医薬保健学域・研究域 医薬保健学総合研究科	特任教授	金子 周一
消化器癌の新たな診断バイオマーカーとしてのラミニン γ 2単鎖の臨床有用性の評価研究	医薬保健学域・研究域 医薬保健学総合研究科	特任教授	金子 周一
膵臓がんの新たな診断バイオマーカーとしてのEphA2関連分子の評価研究	医薬保健学域・研究域 医薬保健学総合研究科	特任教授	金子 周一
定量的マルチモダリティ SPECT・CTの心臓核医学への適応	医薬保健学域・研究域 先進予防医学研究科	特任教授	中嶋 憲一
MIBG指標を加味した慢性心不全における心イベント予測モデルの作成と検証	医薬保健学域・研究域 先進予防医学研究科	特任教授	中嶋 憲一
心臓専用半導体ガンマカメラD-SPECTの臨床応用の探究	医薬保健学域・研究域 先進予防医学研究科	特任教授	中嶋 憲一
脳核医学検査における超高分解能SPECT・CT装置による絶対定量に関する研究	医薬保健学域・研究域 先進予防医学研究科	特任教授	中嶋 憲一
デバイス製造に関するダイナミックエンジニアリングチェーンの構築	融合研究域 融合科学系	教授	秋田 純一
レーザーカッターの普及に向けた初学者向け指導マニュアルの開発	融合研究域 融合科学系	教授	秋田 純一
化粧品の価値創造に関する研究	融合研究域 融合科学系	教授	金間 大介
ものづくり系従業員の幸福度と生産性の両立を実現させる新たな価値に関する研究	融合研究域 融合科学系	教授	金間 大介

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

研究題目	受入部局	職	氏名
UIターン人材による地域企業組織文化改革のためのリカレントプログラム開発と事業自走化の検討	融合研究域 融合科学系	教授	佐無田 光
地方議員の政策向上を目的とした研修プログラム	融合研究域 融合科学系	教授	佐無田 光
カルフィルゾミブを投与した多発性骨髄腫での8カラーフローサイトメトリー（EuroFlow法）による骨髄腫微小残存病変検出法の確立と既存検査法との臨床的意義の比較	融合研究域 融合科学系	教授	高松 博幸
能美市市民満足度調査事業	融合研究域 融合科学系	教授	眞鍋 知子
兼六園でのマイクロツーリズム推進のための可能性調査	融合研究域 融合科学系	准教授	丸谷 耕太
前立腺がんにおける68Ga-PSMA-11を用いた新規診断法の開発に係る医師主導治験	附属病院	講師	稲木 杏史
Prospective multicentre monitoring study of serum biomarkers in IgG4-related disease	附属病院	講師	川野 充弘
原発性アルドステロン症患者における副腎静脈サンプリング時の検体を用いた新型迅速コルチゾール測定キット（QCA）の臨床性能試験	附属病院	助教	米谷 充弘
認証技術を活用した医薬品トレーサビリティの研究	附属病院	教授	崔 吉道
家族性高コレステロール血症変異病原性判定アルゴリズムの開発	附属病院	助教	多田 隼人
実サービスを想定した5G等電波による医用電気機器の電磁障害調査	附属病院	教授	長瀬 啓介
海洋深層水に含まれる微量有機物質の利活用	環日本海域環境研究センター	教授	鈴木 信雄
海洋生物の標本教材の開発と利用	環日本海域環境研究センター	教授	鈴木 信雄
アクアポニックスを目指したバナメイエビ及び魚類の養殖に関する研究	環日本海域環境研究センター	教授	鈴木 信雄
海洋動物のプラスティネーション標本の技術開発と利用	環日本海域環境研究センター	教授	鈴木 信雄
資源循環型社会の構築に向けたイノシシ骨炭粉の農業利用に関する共同研究	環日本海域環境研究センター	准教授	西川 潮
Streptomyces属放線菌に関する研究	新学術創成研究機構	准教授	柘植 陽太
南砺市に対する意識調査に基づく研究	先端科学・社会共創推進機構	准教授	篠田 隆行
組紐技術を用いた再生炭素繊維複合材料に関する研究	設計製造技術研究所	教授	喜成 年泰
TAFNEX® CF/PP（UDテープ）を用いた組紐成形の開発検討	設計製造技術研究所	教授	喜成 年泰
合成繊維糸設備内の空気流解析	設計製造技術研究所	教授	喜成 年泰
熱可塑性CFRPの歯車成形に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
ハイブリッド成形技術を用いた再生炭素繊維複合材料に関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
不連続熱可塑性CFRPシートに関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
熱可塑性CFRPのトリミングに関する研究	設計製造技術研究所	助教	立野 大地
金属AMのモニタリングに関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
金属光造形複合加工法に関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

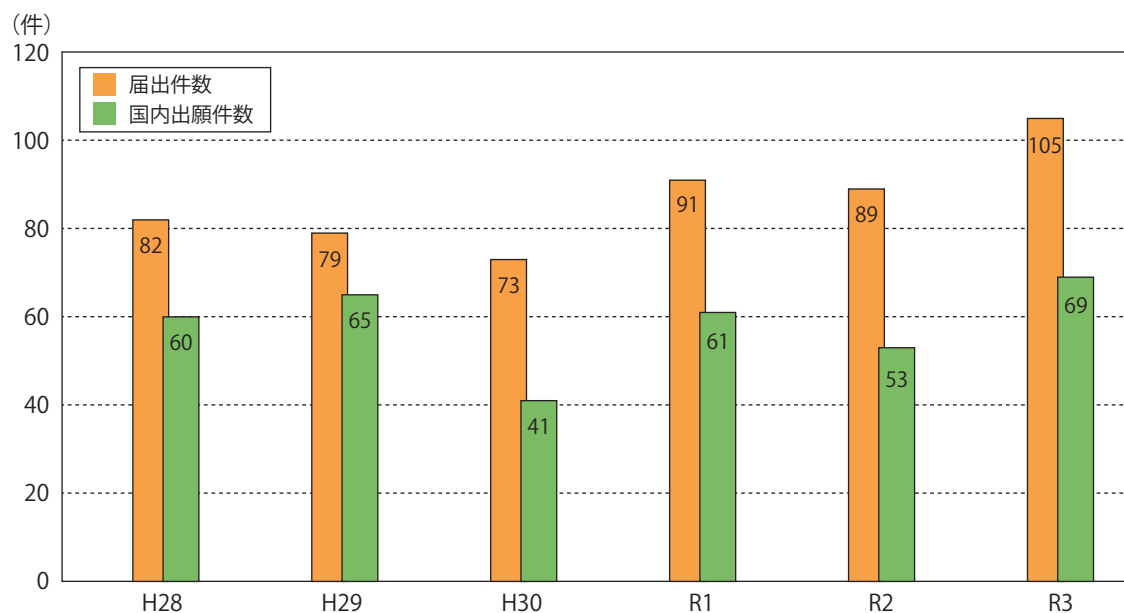
研究題目	受入部局	職	氏名
クロムモリブデン系耐食Ni合金における積層造形に及ぼす粉体性状の影響	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
積層造形技術に関する共同研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
金属AM造形時の環境最適化に関する研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
離型剤の効率的塗布可能な微小管形状部を金属3Dプリンタで実現する高生産性ダイカスト金型の研究	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
サファイア単結晶のレーザー切断	設計製造技術研究所	教授	古本 達明
ワイヤーク積層造形技術に関する共同研究	設計製造技術研究所	助教	山口 貢
ヒト加水分解酵素が触媒する反応に関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	中島 美紀
人工エクソソームに関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
IEP1 複合体を用いたEVエンジニアリングに関する研究	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
中枢由来エクソソームの単離技術の開発	ナノ生命科学研究所	教授	華山 力成
セルロースの高機能化	ナノ生命科学研究所	教授	前田 勝浩
超小型プラズマ波動受信器の信号処理FPGAモジュールの基礎開発	学術メディア創成センター	教授	笠原 禎也
オンラインによる講習の質的改善に関して	学術メディア創成センター	助教	森 祥寛

注 複数教員による共同研究の場合、教員氏名は研究代表者を記してあります。

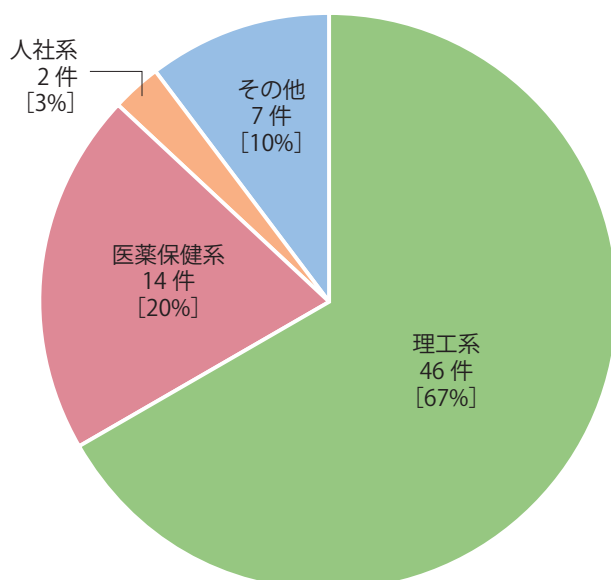
4. 特許出願について

国内特許出願の件数は、この6年間、概ね年間60件前後で推移してきております。大学からの出願を行わずに、共同研究先の企業に有償譲渡するケースも増えています。

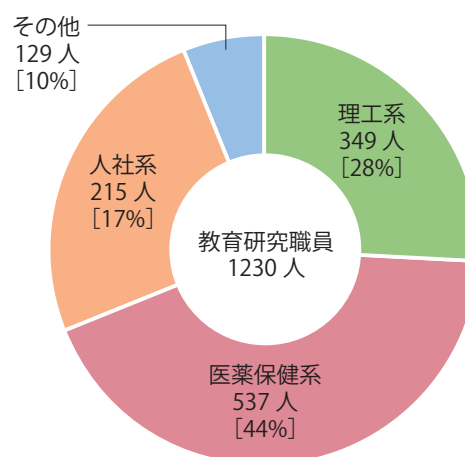
■ 発明届出・特許出願件数（年度別）



■ 令和3年度 特許出願 分野別内訳（69件）



■ 教育研究職員 分野別割合



(令和3年5月1日現在)

5. 令和3年度 公開特許出願一覧

下表は、令和3年度（2021年4月1日～2022年3月31日）に公開された特許出願で、共同出願も含まれます。出願内容は特許庁のJ-PlatPat（特許情報プラットフォーム）から見る事が出来ます。

発明の名称	公開番号
癌免疫増強剤、及びそれを含有する増強抗癌剤	特開2021-050164
情報処理装置、情報処理方法及びプログラム	特開2021-064900
燃料電池	特開2021-064552
燃料電池	特開2021-064551
燃料電池システム	特開2021-064550
燃料電池システム	特開2021-064549
燃料電池	特開2021-064548
燃料電池システム	特開2021-064547
放射線線量計	特開2021-067650
走査型プローブ顕微鏡及びそれを用いた細胞表面の観察方法	特開2021-071427
燃料電池システム	特開2021-072217
燃料電池システム	特開2021-072216
ダイヤモンド基板及びその製造方法	特開2021-080153
融合タンパク質、物質製造方法、ベクター、形質転換細胞、空気入りタイヤの製造方法及びゴム製品の製造方法	特開2021-080204
抗がん剤	特開2021-088511
細菌又は細胞の分類方法、アミノ酸の輸送特性の分類方法、菌感染の診断補助方法並びに癌の診断補助方法	特開2021-094023
細菌感染症の放射性診断薬	特開2021-095401
抗癌剤及びその使用	特開2021-095375
機能性部品の製造方法	特開2021-098280
冠動脈イベント予測のための方法及び試薬	特開2021-105537
流力振動発電装置	特開2021-110320
ダイヤモンド	特開2021-113148
リグノセルロース系バイオマス由来の複合材料及びその製造方法	特再公表W020/045510
有価金属吸着材及び有価金属の回収方法	特開2021-115561
回折環を利用した非破壊材料評価方法	特開2021-124286
膵癌・胆道系癌の化学療法剤の奏効性予測マーカー、及びそれに対応する奏効性予測キット	特開2021-126107
クリティカル期の腎障害を判定するためのマーカー	特再公表W020/080494
クリティカル期の腎障害を判定するためのマーカー	特再公表W020/080488
作業車両の重心位置を推定するためのシステム、方法、及び作業車両	特開2021-134080
微生物解析用の内部標準核酸断片及びその利用	特開2021-132618
電波センサ、および電界成分検出装置	特開2021-135221
ポリロタキサン及びその製造方法並びに架橋ポリロタキサン	特開2021-138635
ブロック共重合材料及びその強化方法	特開2021-137985
微粒子の製造装置および微粒子の製造方法	特再公表W020/050202

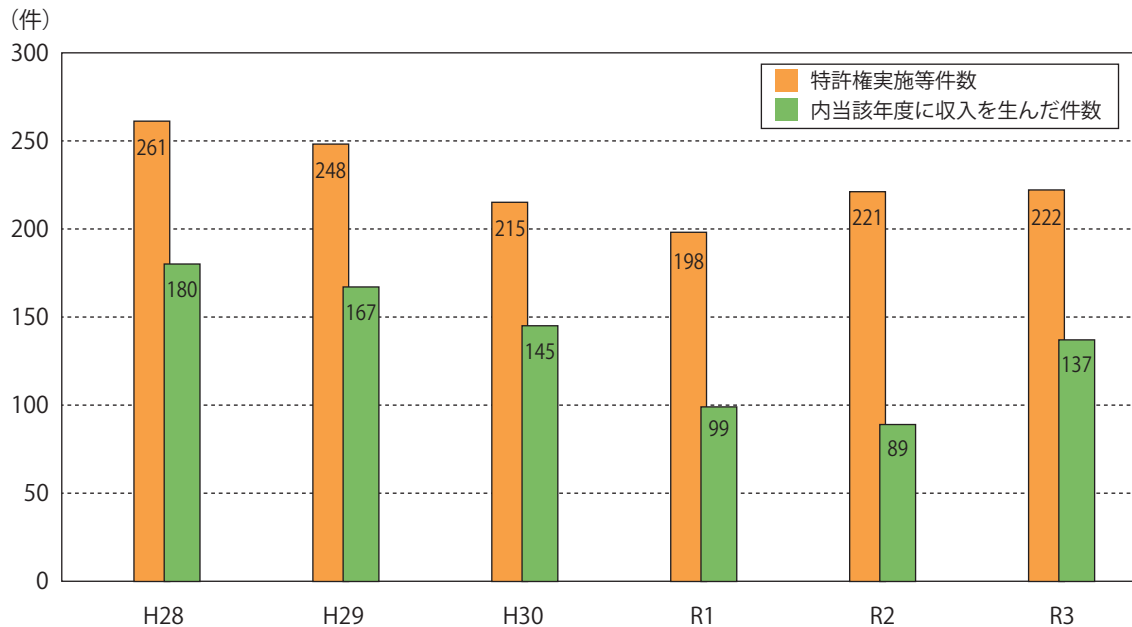
発明の名称	公開番号
ワークピースの化学機械研磨システム、演算システム、および化学機械研磨のシミュレーションモデルを作成する方法	特開2021-146493
振動発電デバイス及び振動発電デバイスの周波数調整方法	特開2021-153381
燃料電池	特開2021-157953
細胞外小胞の分泌を抑制するための組成物	特再公表W020/138266
リアクタ	特開2021-178311
3次元マップ生成方法及び3次元マップ生成装置	特開2021-184069
発光性ナノカーボン製造方法	特開2021-183548
表面処理装置	特開2021-190421
ダイヤモンドの加工方法	特開2021-187700
ダイヤモンドの表面平坦化処理方法	特開2021-187699
成膜装置一体型顕微鏡	特開2021-188987
低分子量ポリマーの製造方法、メルトブローン不織布の製造装置および製造方法	特再公表W021/132175
ダイヤモンド基板	特開2021-193067
認知能力解析装置、認知能力解析方法、及びプログラム	特許第7007676号
パレコウイルス検出用プライマーセット及びその使用	特開2022-014809
トリアジンジオン化合物	特開2022-015617
内視鏡下手術手ブレ抑止矯正機器、及び内視鏡下手術手ブレ抑止矯正システム	特許第7011211号
反射体及び識別システム	特開2022-025406
アンドロゲン依存性又は非依存性前立腺癌細胞の抑制用の組成物及びそれを含有する前立腺癌の医薬製剤	特開2022-031509
子宮特異的Bmal1欠損モデル動物	特開2022-032800
子宮内膜癌の発症の予測方法	特開2022-032795
走査型イオンコンダクタンス顕微鏡	特開2022-033497
走査型イオンコンダクタンス顕微鏡	特開2022-033486
医療用器具	特開2022-038420
燃料電池	特開2022-043610
燃料電池	特開2022-043608
多孔質珪藻ゲル製造方法	特開2022-045378
脳血管攣縮抑制剤	特開2022-047038

(公開順 62件)

6. 特許実施許諾について

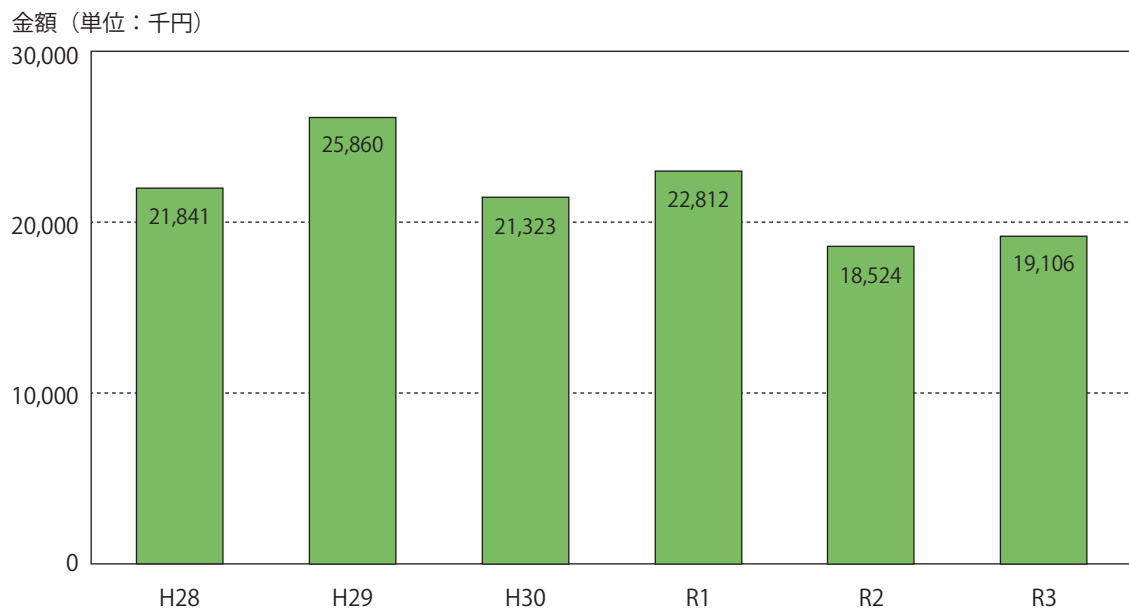
学外の技術移転会社金沢大学ティ・エル・オー（KUTLO）と連携しながら、技術移転活動を推進しています。

■ 特許権実施等件数（外国分含む）（年度別）



※特許権実施等件数とは、各年度で有効な実施許諾又はその年度に譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の件数を指す。（契約に含まれる国内、国外特許の総数）

■ 特許権実施等収入額（外国分含む）（年度別）



■ 特許権実施等件数及び収入における個別実績（令和2年度）

■ 特許権実施等件数（外国分を含む）

No.	機関名	件数	区分
1	東京大学	4,033	
2	京都大学	1,992	
3	大阪大学	1,278	
4	北海道大学	1,179	
5	九州大学	955	
6	関東学院大学	893	私
7	東京工業大学	874	
8	名古屋大学	685	
9	慶應義塾大学	464	私
10	広島大学	425	
11	筑波大学	412	
12	信州大学	381	
13	千葉大学	357	
14	東北大学	270	
15	早稲田大学	254	私
16	神戸大学	252	
17	九州工業大学	233	
18	岡山大学	230	
19	金沢大学	221	
20	東京医科歯科大学	214	
21	東京理科大学	210	私
22	富山大学	204	
23	札幌医科大学	197	公
24	熊本大学	183	
25	日本大学	181	私
26	三重大学	179	
27	群馬大学	159	
28	山形大学	147	
29	静岡大学	145	
30	横浜市立大学	137	公

※特許権実施等件数とは、実施許諾又は譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の数指す。（契約に含まれる国内、国外特許の総数）

※文部科学省「大学等における産学連携等実施状況について（令和2年度実績）」（抜粋） ※上位30機関
（注）表中の区分において、無印は国立大学等、「公」は公立大学等、「私」は私立大学等、「共」は大学共同利用機関法人を表す。

■ 特許権実施等収入（外国分を含む）

(単位：千円)

No.	機関名	収入額	区分
1	京都大学	698,373	
2	九州大学	601,936	
3	大阪大学	509,758	
4	東京大学	261,744	
5	東北大学	157,139	
6	徳島大学	131,417	
7	札幌医科大学	105,462	公
8	北海道大学	86,700	
9	近畿大学	82,359	私
10	神戸大学	78,768	
11	名古屋大学	72,156	
12	慶應義塾大学	67,998	私
13	日本医科大学	58,243	私
14	東京工業大学	57,301	
15	横浜市立大学	50,242	公
16	北里大学	45,190	私
17	東京農工大学	44,098	
18	筑波大学	42,694	
19	広島大学	41,265	
20	日本大学	38,328	私
21	富山大学	35,859	
22	愛媛大学	35,291	
23	情報・システム研究機構	34,244	共
24	熊本大学	29,359	
25	信州大学	29,305	
26	山口大学	29,167	
27	埼玉医科大学	27,468	私
28	高知大学	26,209	
29	長崎大学	25,364	
30	東京医科歯科大学	24,076	

※特許権実施等収入額とは、実施許諾又は譲渡した特許権（「受ける権利」の段階のものも含む）の収入額を指す。

7. ご案内

金沢大学は「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、地域産業界との連携を通して、イノベーションに貢献します。企業様の抱える技術的課題に関するご相談や共同研究に関するご相談を随時受け付けております。

ワンストップサービス窓口、技術相談について

企業様からの、技術相談、学術コンサルティング、共同研究、受託研究など、様々なご相談を当窓口で随時受け付けております。URAがお話を伺い、学内の最適な連携の方法、研究者をご紹介いたします。

ワンストップサービス窓口

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/contact/>



ワンストップサービス窓口のご利用、及び、技術相談の流れ

原則として無料の事前相談を1回実施の上で、1～2時間程度の技術相談を1～2回実施します。

事前相談 (無料)

URA^{*1}が企業様の抱えている課題について伺います。その内容に応じて、学内で最適の研究者を探し、研究者を交えた技術相談を設定します。

※1：リサーチ・アドミニストレーター

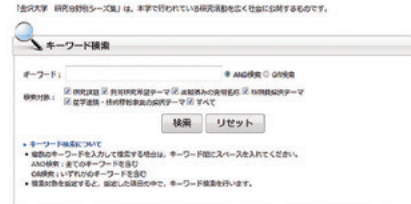
技術相談 (相談実費をご負担いただく場合があります)

研究者とURAが参加して、企業様の技術的課題を整理し、技術課題に対する対応策について議論・アドバイスします。内容によっては、学術コンサルティング制度(p.18)や共同研究(p.19)のご案内も致します。

金沢大学の研究シーズと特許技術の活用について

研究シーズデータベース

金沢大学の人文系・理工系・医薬系の全領域の研究シーズをフリーワードで検索できるデータベースを公開しています。ご利用ください。



<http://ridb.kanazawa-u.ac.jp/seeds/>

金沢大学 シーズ データベース

検索

特許技術の活用のご相談 (KUTLO)

金沢大学で創出された特許の活用について、金沢大学ティ・エル・オー (KUTLO) がお手伝いします。上記技術相談と合わせて、お気軽にご相談ください。



(例：金沢大学特許で開発された空間磁界可視化システム)

KUTLO 金沢大学TLO <http://kutlo.co.jp/>
info@kutlo.co.jp

金沢大学産学連携協力会会員企業様向け支援について

金沢大学では、「金沢大学産学連携協力会」の会員企業様向けに、技術相談に対する支援を行っております。

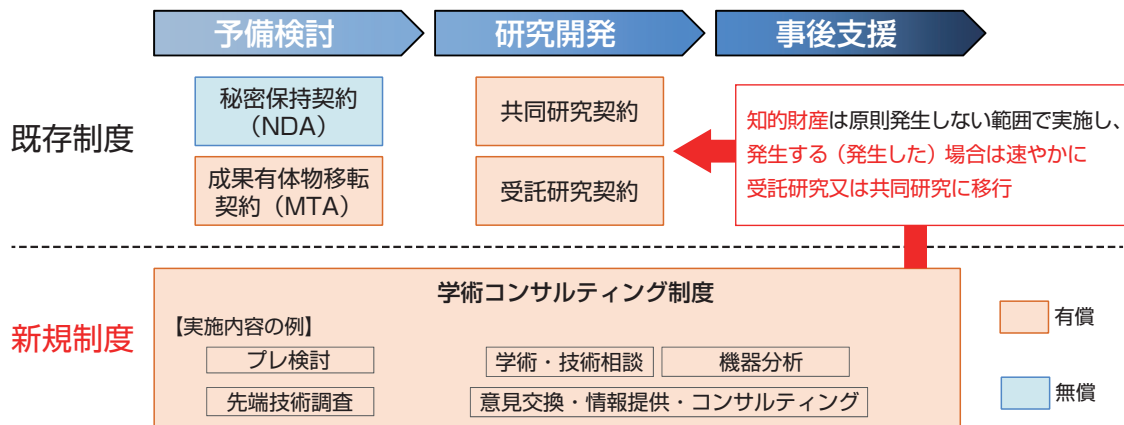
これは、技術相談に係る相談実費の一部を協力会が負担するもので、会員企業様には大変お得な制度です。詳細はp.23をご覧ください。

■協力会に関するお問い合わせ先

金沢大学産学連携協力会
〒920-1192 金沢市角間町
Tel：076-264-6109 Fax：076-234-4019
E-Mail：kyouryokukai@adm.kanazawa-u.ac.jp

学術コンサルティング制度について

金沢大学では、2021年4月に学術コンサルティング制度を新設しました。本制度は、企業様からの委託を受けて、金沢大学の教職員等が専門的知識に基づき、委託企業様の学術上の課題解決等について助言等を行うものです。本制度は、受託研究、共同研究、兼業等といった既存の制度に当てはまらない産官学連携業務に対し、実態にあった契約ができる新たな制度の設置を目的としています。



1. 学術コンサルティングに係る費用

直接経費
指導料：2万円以上／時間（1時間単位） ※実施者が使用する少額の消耗品費や軽微な必要経費を含む 指導料の他、別途必要となる経費： 旅費、機器利用・管理料、協力者の人件費など実施者の指導料以外に特に必要な費用
間接経費
直接経費の30%（外国企業様が委託者の場合は40%）

2. 申込みと契約手続き

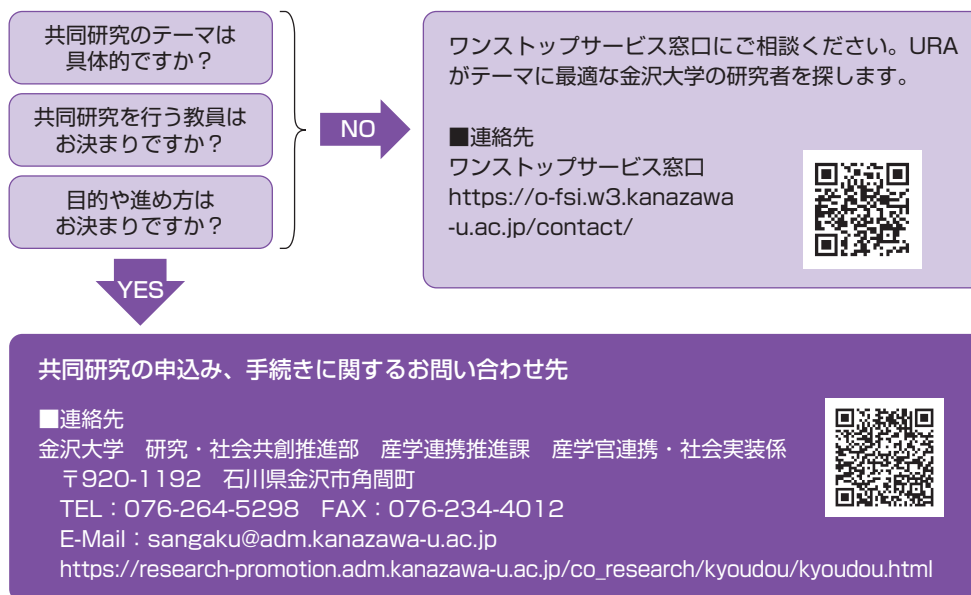
学術コンサルティングを実施する教員（担当教員）と、内容や学術コンサルティング料について事前打合せをお願いします。内容等が決まりましたら、「学術コンサルティング申込書兼受諾書」を担当教員（複数いる場合は代表教員）の所属する部局の事務部担当係へご提出ください。なお、期間に最短の制限はなく、最長3年（変更契約後の期間も含む）としています。



契約金額（間接経費、税込）	契約形態
100万円未満	原則、約款による契約（ 契約内容の修正不可 ）
100万円以上、300万円未満	約款による契約、または 契約内容の協議及び契約書の締結可
300万円以上	共同研究又は受託研究での契約を検討 ※やむを得ず学術コンサルティング制度を用いる場合は 契約書の締結 とする

共同研究について

企業様等の研究者と本学の教員とが共通の研究課題について、対等の立場で共同して研究を行う制度です。共同研究を行う上で、テーマ・担当教員・進め方等が具体的にお決まりでない場合は、先端科学・社会共創推進機構にご相談ください。URAが、最適な研究者を探します。



1. 共同研究の形態

企業様等から研究者と研究経費を受け入れて、基本的に本学において研究を行うタイプの『派遣型』、本学の教員と企業様等の研究者が、共通の研究課題について研究を分担し、それぞれの施設において研究を進めるタイプの『分担型』があります。

2. 共同研究に必要な経費

研究料（企業様等の研究者の受け入れに必要な経費）、直接経費、間接経費をご負担いただきます。文部科学省および経済産業省が策定した「産学官連携による共同研究強化のためのガイドライン」（2016年11月）に対応すべく、下記のとおり人件費、間接経費の基準を改訂いたしました。

- ①共同研究担当教員等人件費のアワーレートによる積算方法の導入。
- ②管理運営費（間接経費）を直接経費の20%に改定。
- ③包括連携など組織対応型の共同研究には戦略的産学連携経費の加算。

3. 知的財産権の取り扱い

原則として、企業様等と本学の発明完成への貢献度を踏まえて持分を決定します。共同研究の結果発生した知的財産権について、共同研究先の企業様等は、本学に、当該知的財産権の出願時に優先的に譲渡又は実施権（独占的实施権、非独占的实施権）の許諾を求めることができます。

4. 本学への申込時期

随時可能です。

5. 研究期間

複数年にわたって契約することも可能です。

包括連携協定について

金沢大学では、個別の研究課題に限った企業様との交流だけでなく、「組織 対 組織」で幅広く交流して、ともに課題解決を図る産学連携包括連携協定による企業様との交流も進めています。

産学連携包括連携協定締結先一覧

企業・機関名	協定締結日
株式会社小松製作所	平成17年11月9日
澁谷工業株式会社	平成20年5月12日
北陸電力株式会社	平成24年2月10日
株式会社PFU	平成27年2月18日
株式会社日本政策金融公庫 金沢支店	平成29年1月31日
トヨタ紡織株式会社	平成30年3月1日
株式会社ダイセル	平成30年7月30日
日本高速道路株式会社金沢支社	平成31年2月28日
中小企業基盤整備機構北陸本部	令和3年3月17日
株式会社アクトリー	令和3年4月23日



株式会社アクトリー様との協定締結式

産学連携包括連携の取り組みとメリット

【主な取り組み内容例】

- ①技術相談等を通じた研究開発上の意見交換・指導助言
- ②共同研究や受託研究による研究開発
- ③技術教育とそれにかかる講師派遣等の人的な交流
- ④インターンシップの受け入れ、企業様情報の提供等学生に関する支援・協力
年2回程度、相互の役員や部局長も参加する連携推進会議を開催

【包括連携のメリット】

- ①個々の研究室レベルではなく、役員・部局長をトップに据えた「組織 対 組織」の関係へ
- ②URA（リサーチ・アドミニストレーター）や本部事務局を交えたニーズ・シーズマッチング
- ③人社系や医薬保健系も含めた総合大学としての強みの活用

産学連携包括連携の成果の一例

北陸電力：「補助型ロボット（アシストアーム）の研究」の実用化



電力会社の配電工事現場（高所作業車）での補助員の省力化と効率化の課題

- ①URAを介して、企業様のニーズを聞き取り、ロボット工学の研究シーズとマッチング
- ②企業様の現場と機械工学系の研究室とで共同研究に着手
- ③特許の共同出願を通して、試作機を作成。実用化へ

共創型研究支援プロジェクトについて

金沢大学は、2017年度までの5年間、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に取り組みました。人間社会、理工、医薬保健の3研究域を横断した異分野融合体制で、風土・住民特性に即した予防医療や健康増進、老朽化した社会インフラの整理統合・多機能化、地域の産業・雇用を支える地域内経済循環の促進など、地域の持続的発展を目指した研究活動を進めてきました。2018年度から本学先端科学・社会共創推進機構内に、異分野融合研究推進を通じて研究拠点形成を目指す「共創型研究支援プロジェクト」を創設しています。

本プロジェクトでは、これまで進めてきた様々な地域志向研究活動を基礎に、多様な諸課題の関係性をふまえて、地域のステークホルダーとの対話・協働の場を創出し、地域の総合的な課題解決を目指した異分野融合研究推進、社会実装を目指します。

地域課題解決のために本学との共同研究をご希望される自治体様や、研究域を横断する異分野融合研究の課題をお考えの研究者からのお問い合わせをお待ちしております。

新規支援プロジェクトの募集

■目的

共創型研究支援プロジェクトは、課題解決のため、研究域を横断するボトムアップ型異分野融合研究を推進し、自治体様、企業様、他大学、学外研究機関等との連携により研究成果の社会実装の展開を推進することを目的としています。

■対象

- ・異分野融合型地域課題解決のために本学との共同研究をご希望される自治体様、企業様
- ・研究域を横断する異分野融合研究の課題をお考えの研究者

■支援の概要

本プロジェクトの支援内容は以下の通りです。

- ・自治体様、企業様と異分野にまたがる学内外研究者との連携に向けたマッチング支援
- ・研究成果のフィードバックや、社会実装に関する相談と調整
- ・データ提供・取り扱いや調査実施等に関する調整や契約行為に関する支援
- ・異分野融合研究のための外部資金獲得に向けた取組や事務局機能の支援

※なお、支援内容に予算措置等資金的な支援は含まれていません。

■支援対象活動の募集・選定

学内外の皆様からの相談は随時受け付けています。お気軽にご相談ください。

支援対象とするかは、先端科学・社会共創推進機構内に設置された共創型研究支援プロジェクト委員会（以下、委員会）で検討します。

委員会にて選定されれば、共創型研究として、活動内容に関する情報を共有し、支援に向けた方向性を検討します。

■支援対象プロジェクトの報告等

支援対象プロジェクトに関しては、委員会や報告会等で、進捗・成果等について報告をお願いする場合があります。

■お問い合わせ先、相談窓口：ワンストップサービス窓口

<https://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/contact/>

金沢大学認定ベンチャー制度について

令和3年度に「金沢大学認定ベンチャー」制度を開始しました。金沢大学の研究成果や知的財産権を活用して起業した法人（準備中の方を含む）に対して、円滑な事業実施のため支援し、研究成果の社会実装と本学の研究の進展をはかります。認定を受けると、ロゴマークの使用のほか、本学が協定を有する公的機関や金融機関への紹介や経営指導・助言などの支援を受けることができます。

「金沢大学認定ベンチャー」の要件

本学の研究成果を活用して起業した法人のうち、次の各号すべてに該当するもの。申請の日から1年以内に、次の各号すべてに該当する予定がある場合も申請できます。

- (1) 本学の役職員又は学生（在職又は在学していた者を含む。）が、本学において習得した技術、知識等を利用して設立した法人。
- (2) 本学から知的財産権の実施許諾を受けている法人。
- (3) 会社法により設立された法人。



金沢大学認定ベンチャーロゴマーク



第一回 称号授与式（令和3年9月29日）

金沢大学認定ベンチャー 一覧（令和3年10月1日現在）

(1) 株式会社キュービクス 創業：2004年創業。石川県白山市 事業：マイクロアレイを用いた遺伝子発現解析サービス、など。 https://www.kubix.co.jp/
(2) 株式会社バイオセラピー開発研究センター 創業：2006年創業。石川県金沢市 事業：バイオテクノロジーに基づく食品・医薬品素材の研究開発、など。 http://www.biotherapy.co.jp/
(3) Ostics株式会社 創業：2019年創業。石川県金沢市 事業：骨密度検査に関わる業務、など。
(4) 株式会社Kanazawa Diamond 創業：2020年12月創業。石川県金沢市 事業：ダイヤモンドの製造、加工及び販売、など。 https://kanazawadiamond.co.jp/

金沢大学産学連携協力会のご案内

金沢大学産学連携協力会は、金沢大学先端科学・社会共創推進機構の事業を支援し、金沢大学と産業界が地に足のついた産学連携と相互の日常的な交流を進めることを目指し設立された団体です。

本会は、地域の産業や地域社会が抱える課題の解決に大学との協働により、積極的に取り組む企業様（特別会員）と金沢大学が行う各種活動を支援し、産学連携と相互の日常的な交流を進めることを目指す企業様、業界団体等（一般会員）で構成されております。

1. 協力会概要

【会員】 本会の事業に賛同する企業様、業界団体様等（約100機関、うち特別会員は19社）

【会費】 年1口3万円（特別会員は10口以上）

※令和2～4年度はコロナによる活動のオンライン化にともない半額

【設立】 平成13年7月

2. 活動

① 全会員対象の活動

- ・ 技術相談の実施支援
- ・ 総会、イノベーションシンポジウムと懇親会の開催（年各1回）
- ・ 研究室見学会の開催（年3回程度実施）
- ・ 本学が出展する展示会、主催する新技術説明会等のイベント情報の発信
- ・ 刊行物の発送（シーズ集、産学官・知財関連レポート等）

② 特別会員対象の活動

- ・ 特別セミナー、地元企業様の工場見学、懇親会の開催
- ・ 金沢大学の若手研究者奨励賞の授与

3. 入会のメリット

- ① 専門知識を必要とするご相談には、技術相談が有効です。最適な教員をご紹介します、対応させていただきます。会員企業様には、技術相談の実費の一部（年会費相当額まで）を、協力会よりサポートさせていただきます。
- ② セミナー、イベントでの金沢大学の教員との交流や、送付する刊行物を通じて、大学での研究活動の状況等をご理解いただけます。また、共同研究、技術相談ご検討のきっかけ作りとなる研究室見学会にご参加いただけます。
- ③ 有益な公的資金情報をご紹介しますと同時に、資金獲得に向け大学との連携の検討等を含め申請のサポートをいたします。
- ④ 協力会HPでは、大学から企業様へのご案内（技術研究情報・イベント・セミナー等）だけではなく、企業様自身のイベント案内にもご利用いただけます。 ※営利目的でのご利用はご遠慮ください。
- ⑤ 協力会HPから会員企業様HPをリンク掲載し、ご紹介いたします。簡単な企業様のPRも一文掲載可能ですので、お気軽にご相談ください。

■協力会に関するお問い合わせ先

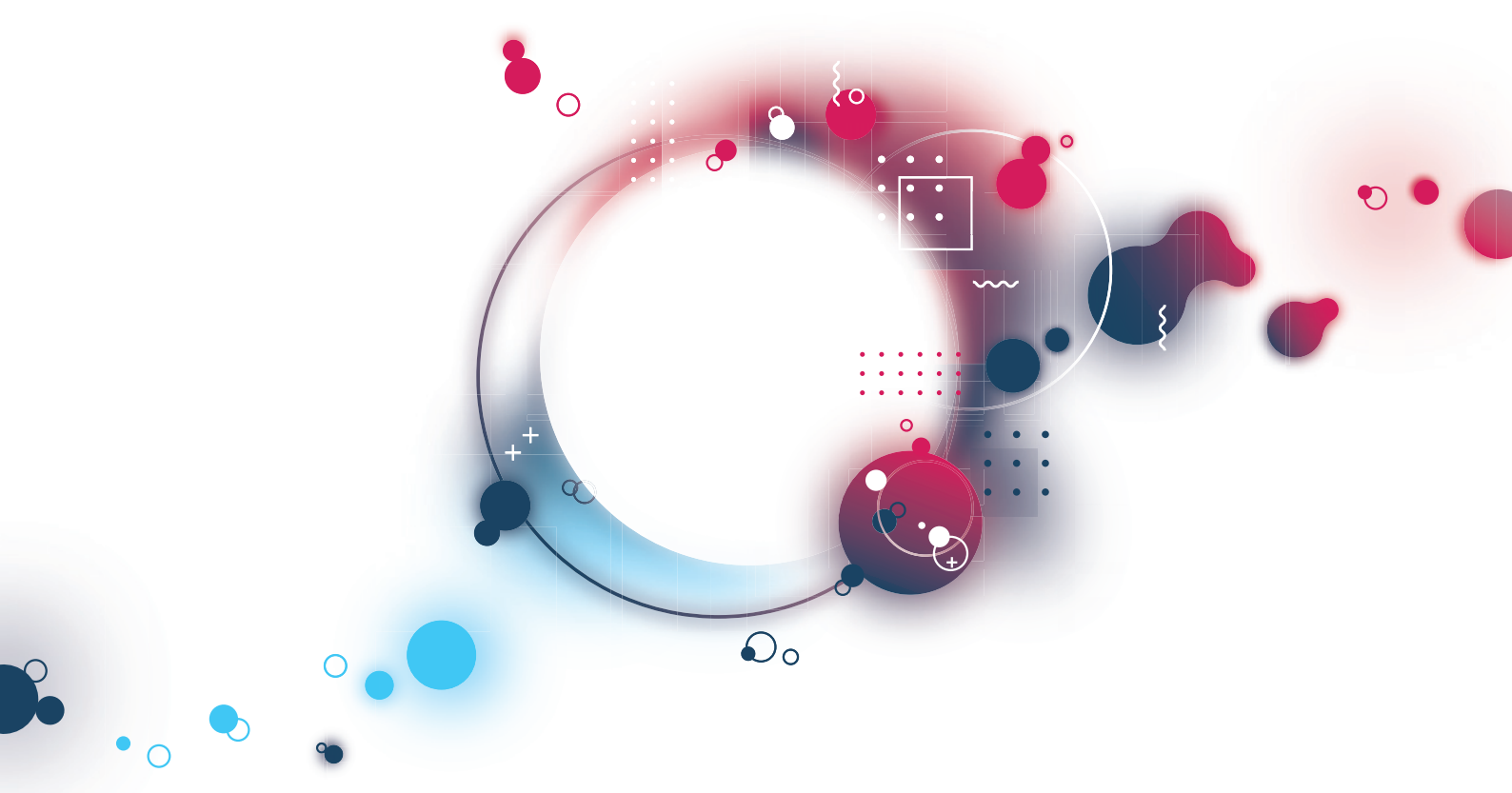
金沢大学産学連携協力会

〒920-1192 石川県金沢市角間町

Tel : 076-264-6109 Fax : 076-234-4019

E-Mail : kyouryokukai@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL : <http://www.innov-kyouryokukai.com/>



(連絡先)

金沢大学 先端科学・社会共創推進機構

〒920-1192 金沢市角間町

T E L : 076-264-6111

F A X : 076-234-4019

E-Mail : o-fsi@adm.kanazawa-u.ac.jp

U R L : <http://o-fsi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

